

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名	建築都市局
-----------	--------------

基本計画	柱	街を支える
	大項目	都市の発展を支える拠点地区の整備
	取組みの方針	戦略的拠点の機能強化

担当局 / 総務担当課名	建築都市局	事業調整課
連絡先	582 - 2864	

21年度計画

-1-(3)-

施策名	研究・開発拠点の整備
------------	-------------------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	北九州学術研究都市を知的基盤の中核として、周辺の自然環境を活かしながら、複合的なまちづくりをめざします。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	戦略的拠点の機能強化

	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		現状値		平成21年度	目標値		
	年度	平成20年度	計画	実績		年度	平成26年度	
施策の成果	北九州学術・研究都市北部土地区画整理事業進捗率		年度	平成20年度	計画	52.7 %	年度	平成26年度
	知的基盤の整備を中核とした複合的なまちづくりを進めるためには、基盤整備事業である土地区画整理事業を計画的に進めていく必要があります。そのため、事業の推進状況を端的に示す活動指標として事業進捗率を掲げました。	現状値	47.3%	実績	53.1 %	目標値	100.0%	
				達成度	100.8 %			
		年度		計画		年度		
		現状値		実績		目標値		
				達成度	%			
	年度		計画		年度			
	現状値		実績		目標値			
			達成度	%				
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]		事業費	1,505,249 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)			
			うち一般財源	千円	136,500 千円			

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	A	・平成21年度の北九州学術研究都市の基盤整備については、塩屋地区及び小敷地区の整地工事を重点的に進め、事業進捗率は53.1%と、計画を上回っており、順調に進んでいる状況です。
今後の局施策の方向性		・北九州学術研究都市は、アジアをリードする頭脳拠点の形成を目指す本市の知的基盤の中核となる大学、研究・開発機関を集積する地区であり、その基盤整備は土地区画整理事業で行っています。 ・平成18年度には北九州学術研究都市南部地区(121.4ha)の事業が完了し、平成14年度からは北九州学術研究都市北部地区(135.5ha)の整備に着手しています。今後とも、コスト削減を図りながら計画的な事業進捗に取り組んでまいります。

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

<input checked="" type="checkbox"/> 適切な評価 <input type="checkbox"/> 下記のとおり

施策名 研究・開発拠点の整備

構成事業名	事業費		事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度: 執行額]				21年度			21年度
北九州学術・研究都市北部土地区画整理事業			1,505,249 千円	136,500 千円	特別会計			ウ
事業費のうち一般財源			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
局施策全体の事業費のうち一般財源	1,505,249 千円	136,500 千円

局施策の
21年度評価

A

【局施策評価】
 A: 大変良い状況にある
 B: 概ね良い状況にある
 C: 概ね良い状況とまでは言えない
 D: 不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 A: 事業の見直しを図ることが可能 I: 休止・廃止を検討 U: 現状のまま進めることが適当 E: 終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	建築都市局	区画整理課
連絡先	582-2469	

基本計画	柱	街を支える
	大項目	都市の発展を支える拠点地区の整備
	取組みの方針	戦略的拠点の機能強化
	主要施策	研究・開発拠点の整備

関連計画	
事業期間	平成14年度～平成26年度
経費区分	特別会計

- 1 - (3) -

事業名	北九州学術・研究都市北部土地区画整理事業
-----	----------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	本事業は北九州学術研究都市を知的基盤の中核として、周辺の自然環境を活かしながら、複合的なまちづくりを進めていくための基盤整備事業です。施行者北九州市、事業期間平成14年4月から平成27年3月、施行面積約135.5ヘクタールの国から認可された土地区画整理事業として整備を進めています。		
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	研究・開発拠点の整備	成果

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由
		当初計画	事業進捗率52.7% 整地、宅地整備、道路築造、公園整備等	事業進捗率63.3% 整地、宅地整備、道路築造等	事業進捗率72.5% 整地、宅地整備、道路築造等	事業進捗率82.2% 宅地整備、道路築造等	
現状	事業進捗率53.1% 整地、宅地整備、道路築造、公園整備等	事業進捗率63.3% 整地、宅地整備、道路築造等	事業進捗率72.5% 整地、宅地整備、道路築造等	事業進捗率82.2% 宅地整備、道路築造等	事業進捗率91.4% 宅地整備、道路築造等		
実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成21年度	目標
	北九州学術・研究都市北部土地区画整理事業進捗率				計画	52.7 %	年度
	本事業は知的基盤の整備を中核に複合的なまちづくりを進めるため、その基礎となる宅地整備等を計画的に進めていきます。平成26年度末の事業完成を目標に、進捗率は総事業費に対する当該年度までの事業費執行額の割合を示しています。				実績	53.1 %	内容
					達成度	100.8 %	100.0%
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]				事業費	1,505,249 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)
					うち一般財源	千円	136,500 千円
単年度計画	[図表: 単年度計画の進捗率推移]						

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 平成21年度は塩屋地区及び小敷地区の整地工事を重点的に行いました。この結果、ほぼ実施工程どおりに事業を進めることができました。 今後も計画的な事業進捗に努めます。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業は、研究・開発拠点の基盤整備を行うものであり、施策の実現に対し有効であると考えます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	効率的な事業の進捗のため地区内で行う工事において、コスト縮減に努めております。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	本事業の遅延は施策実現の遅延及び、コスト増大につながるため影響は大きいと考えます。また、本事業を協同で行っている地権者(約200人)の生活設計にも影響があると予測されます。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。	4	本事業は研究・開発拠点の基盤整備であり、市が主体として実施することが適切であると考えられます。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	本事業は、「研究・開発拠点の整備」という施策目標の達成に必要不可欠であり、今後とも計画的に事業を進めていくことが必要であると考えます。